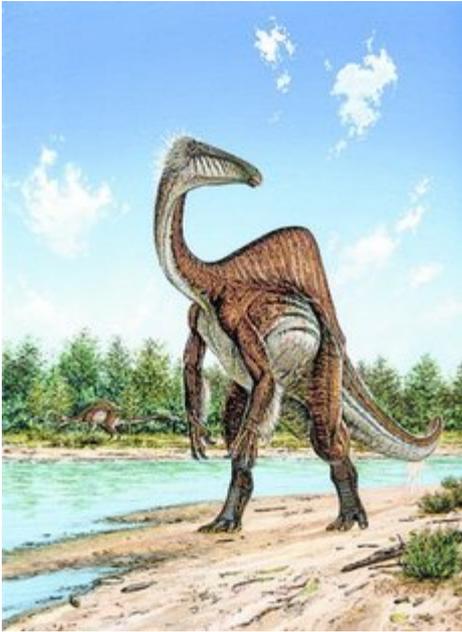




よう太のワーク 「デイノケイルス」



デイノケイルスのイメージ(国際研究チーム提供)

●記事からさがそう。

(第1、2段落から)

恐竜「デイノケイルス」について、

- ① 最初に見つかったのはいつ？
- ② どこで見つかったの？
- ③ 体のどの部分が見つかったの？
- ④ 「デイノケイルス」の全貌を解明したと発表したのはだれ？
- ⑤ それはいつ？
- ⑥ どのような方法で全貌を解明したの？

モンゴル・ゴビ砂漠で1965年、中生代白亜紀末(約7000万年前)の地層で長い両腕の化石が見つかり、その後、約50年間にわたり姿形が謎に包まれていた恐竜「デイノケイルス」の全貌が、2006年以降に発見された化石の研究結果で判明した。

北海道大などの国際研究チームが、22日付の英科学誌ネイチャー電子版に発表した。

肉食恐竜のような鋭いかぎ爪、植物食恐竜のようなくちばし、背中にはひれがある。成体は体長11メートル、重さ6.4トン(推定)。ゆっくりと動き回りながら、長さ2.4メートルもある腕で植物を集めたり、魚を捕ったりして食べていたとみられる。

チームの北海道大総合博物館の小林快次准教授は「さまざまな恐竜の特徴を併せ持ち、非常に珍しい」と話している。先端が丸みを帯びた足の爪は、湿地などを歩くのに適しているという。

チームは65年に両腕が見つかった現場近くで、06年に若いデイノケイルス、09年に成体の胴体を発見。また、現地で盗掘された後、最終的にベルギーに運ばれていた頭や手足が09年にチームが発掘した成体の一部だったことも確認した。これらは日本で一時、何者かが所有していたとの情報があるという。

骨の分析からデイノケイルスは雑食性の「オルニトミモサウルス類」と判明。この仲間の多くは骨が軽く、体つきがきゃしゃで足が速かったとみられているが、デイノケイルスは進化の過程で速く走ることを捨てる代わりに、大きくがっしりした体を得たらしい。

掲載日：2014年10月23日／紙面：山陽新聞朝刊／掲載：4ページ

・ _____月 _____日

_____年 _____組 _____番 名前 _____

解答例

① 最初に見つかったのはいつ？

1965年

② どこで見つかったの？

モンゴル・ゴビ砂漠の中生代白亜紀末 約 7000 万年前の地層で

③ 体のどの部分が見つかったの？

長い両腕の化石

④ 「デイノケイルス」の全貌を解明したと発表したのはだれ？

北海道大などの国際研究チームが

⑤ それはいつ？どこで発表したの？

10月22日付の英科学誌ネイチャー電子版に

⑥ どのような方法で全貌を解明したの？

2006年以降に発見された「デイノケイルス」の化石を研究して